

3. 品川駅 えきまちコンセプト

品川駅 えきまちガイドライン策定の背景

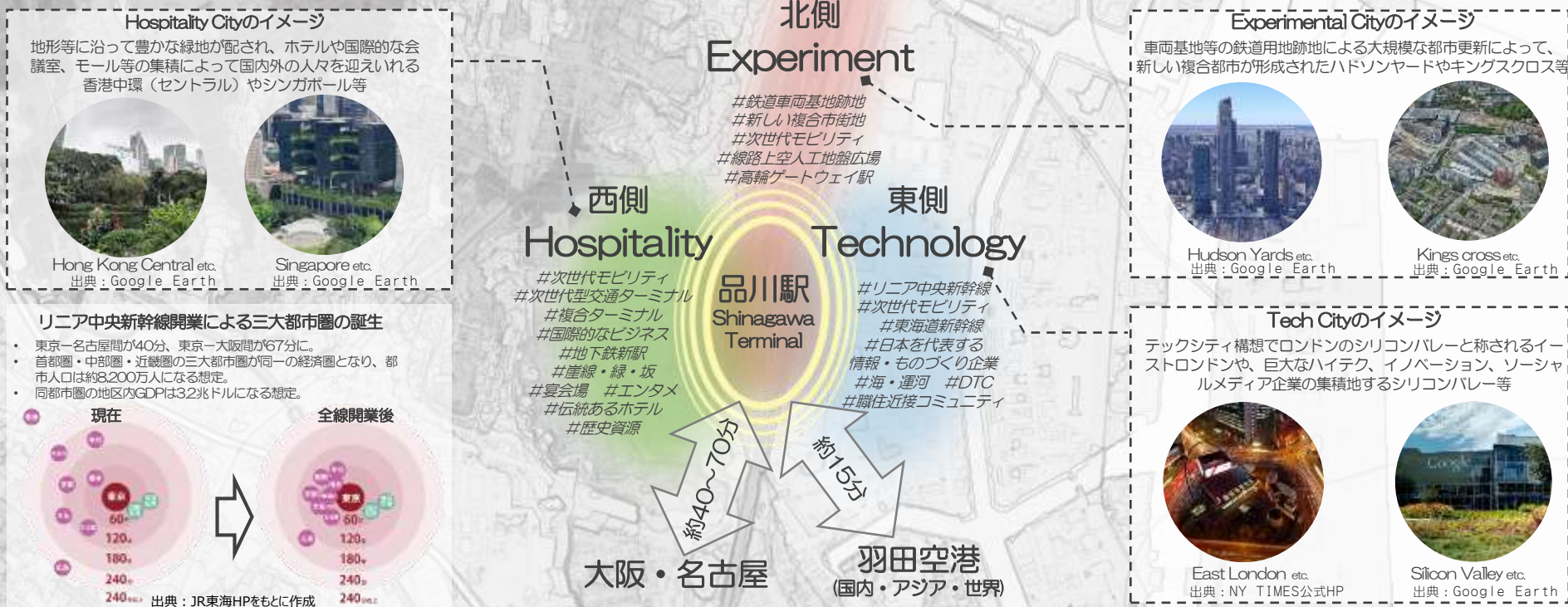
- 品川駅周辺は、GL2020において、「これからの日本の成長を牽引する国際交流拠点・品川」が目指されている。
- 複数の都市基盤施設や大規模建築物の整備が予定されている。

品川駅周辺地域の特性とポテンシャル

- かつては豊かな地形・自然とまちが繋がるエリアであり、現在も一部崖線や緑、水辺空間がある
- また、その時代の先端を担う多様な交通モードや、様々なものづくり・先端技術等の技術革新（イノベーション）を発信してきた。

継承 × 革新 Timeless × Innovative SHINAGAWA Integrated City

品川駅を中心として、3つのまちがこれまで培われてきた自然や歴史を継承し、それぞれの個性を深めながら新たなまちに生まれ変わっていきます。そして、この3つのまちを、品川駅えきまちとして、ひとつに結び付け、統合していくことで、新たな文化、技術などの革新を創出し発展し続けていきます。世界とも結ばれるこのまちは、人々を引き寄せ、「国際交流拠点・品川」として日本の成長を牽引していきます。



4. 品川駅 えきまちコンセプトを実現する3つのポリシー

品川駅 えきまちコンセプトの実現に向けて、次の3つのポリシーを定めます



①それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける



②広場やデッキ等を活かし、自然とえきまちを繋げる



③多様で立体的な交通モード間をシームレスに繋ぐ



①それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける

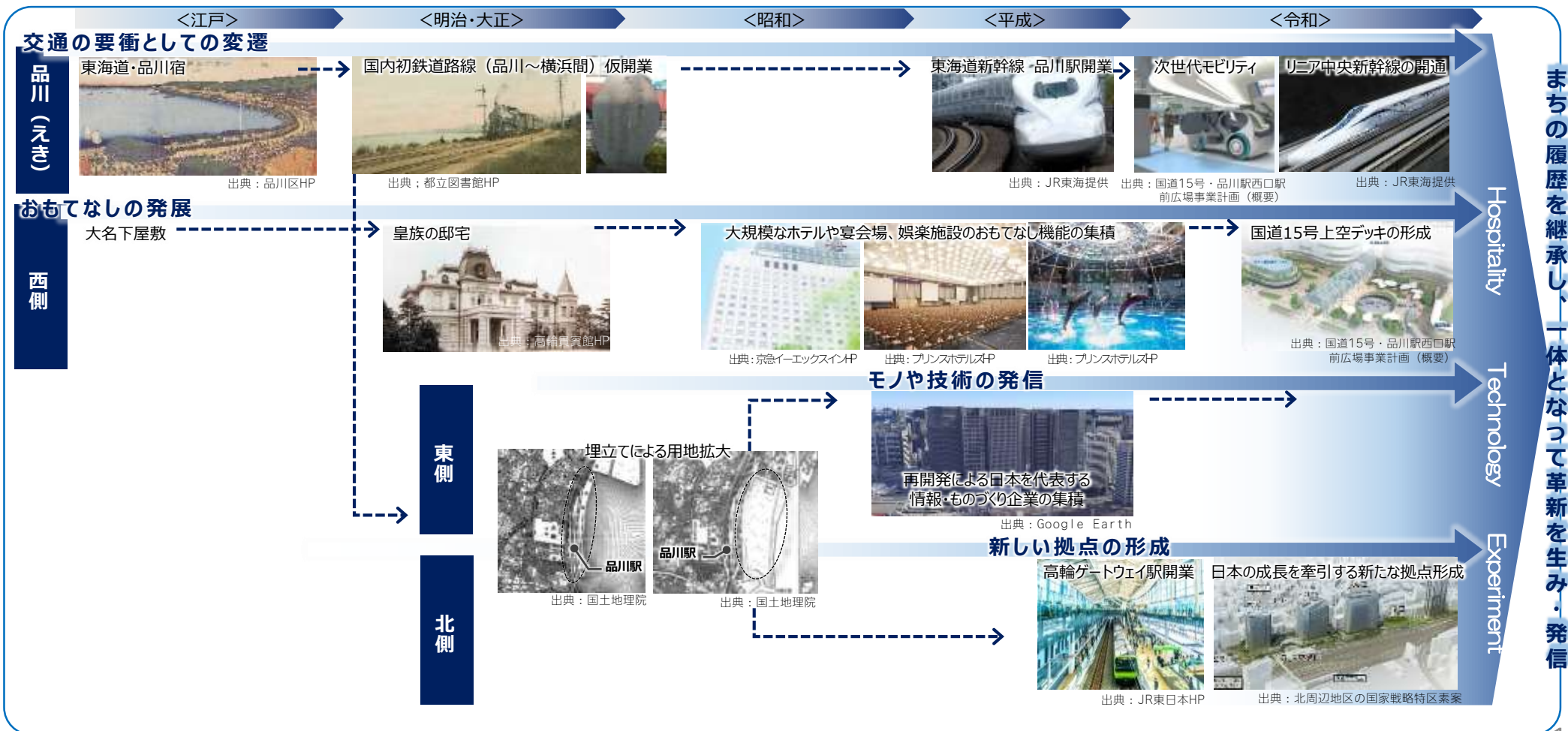
■「まちの履歴＝品川らしさ」の継承

品川駅周辺は崖線、緑、海等の豊かな地形・自然等を活用しながら、ホテル等の集積によるおもてなし空間の形成や新幹線の開業、日本を代表する情報・ものづくり企業の集積、鉄道車両基地活用による新市街地等、その時代のニーズに応じてきた「まちの履歴」があり、これらが現在・未来へと継承すべき品川らしさに繋がっていることから、「まちの履歴」を継承することが必要です。



■革新を生み発信し続ける

日本の玄関口として、品川らしさである「まちの履歴」を継承しながら、今後予定されている国道15号上空デッキや次世代モビリティ、リニア中央新幹線等を加え、文化・技術等の革新（イノベーション）を生み、発信（実験・実証・挑戦）をし続けることで、国際交流拠点の強化を目指します。



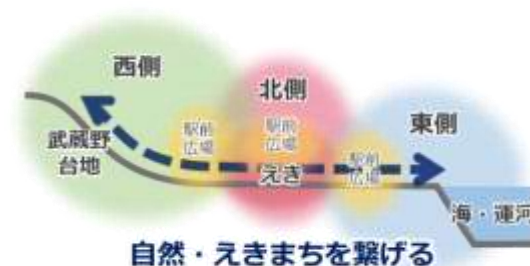
4. 品川駅 えきまちコンセプトを実現する3つのポリシー

② 広場やデッキ等を活かし、自然とえきまちを繋げる

■ 「自然」と「えきまち」が繋がる一体的なエリア

駅西側の武蔵野台地が駅東側の海に近いところまで迫っていた地形と、鉄道開業による土地の広がり（埋め立て）により形成されてきたまちです。

かつて一続きだった台地と海を緩やかに連続させながら、自然とえきまちが繋がる一体的なエリアを目指していきます。



江戸期

武蔵野台地が海に近い位置まで迫る、特徴的な地形。大名屋敷や台地から海を臨む風光明媚な場所。



出典：品川区HP

明治期～昭和

1872年 | 品川駅開業
市街地の外縁部であった海沿いに鉄道が敷設。

その後、海を埋め立てたことにより土地が東側へ拡大。東西、それぞれにまちが形成されていった。

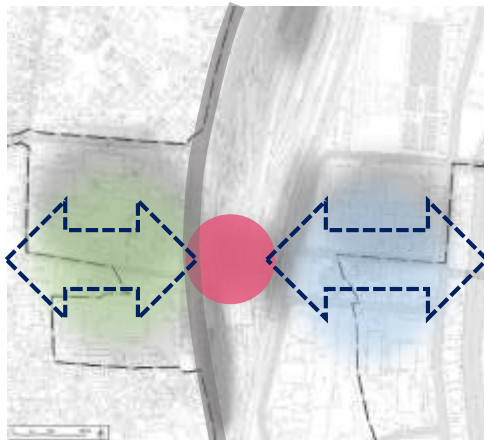


出典：都立図書館HP

現在のまちの構造

鉄道や幹線道路が東西の行き来を妨げる一方、それぞれが特徴あるエリアとして発展。

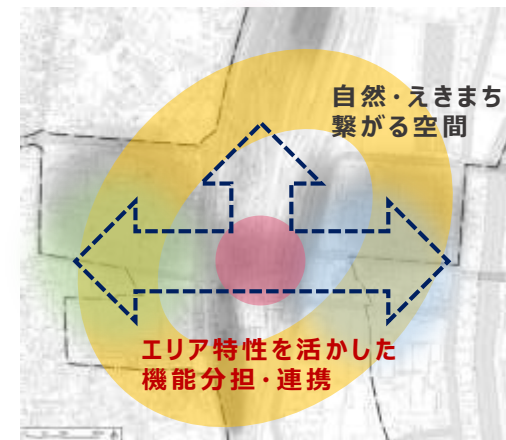
鉄道（鉄道用地）と幹線道路による東西のまちの分断



将来のまちの構造

分断された東西をデッキレベルで接続し、周辺に広がる台地と海が一続きになる土地の記憶をよみがえらせる。

デッキ整備による
台地と海が連続する空間整備



デッキレベルでの接続

4. 品川駅 えきまちコンセプトを実現する3つのポリシー

③ 多様で立体的な交通モード間をシームレスに繋ぐ

■ 各機能をシームレスに繋ぐ

品川駅は、東京と日本の各地を結ぶ広域交通の拠点であり、また、国際空港との近接性を活かした国外とを結ぶ玄関口として位置付けられます。首都圏近郊に対しては、在来線のターミナル駅として各鉄道への乗換えなども行われる交通拠点としての役割も担っています。

今後は、新たなモビリティの導入により利用者側の選択肢がさらに増えることから各モード間をシームレスにつなぐ重要性が高まるとともに、総移動時間の短縮とそれに伴うゆとり時間の活用にも配慮した計画が重要となります。

また、地区内を徒歩移動する人にわかりやすい動線やサイン計画など、ユニバーサルデザインに配慮した空間づくりや地区内での物流分野を支えるインフラ整備を含め、「人」と「モノ」の移動の円滑化を図っていくことも重要となります。



新たな交通機能

リニア中央新幹線 | 国内3大都市圏が概ね1時間以内で結ばれる



出典：JR東海提供

地下鉄新線(構想) | 都心西側エリアとのアクセス性向上

次世代モビリティ | 小型モビリティやパーソナルモビリティ、オンデマンドバスなどの導入による地区内及び近距離への移動を円滑化



出典：国道15号・品川駅西口駅前広場事業計画(概要)

新たなサービス (ソフト)



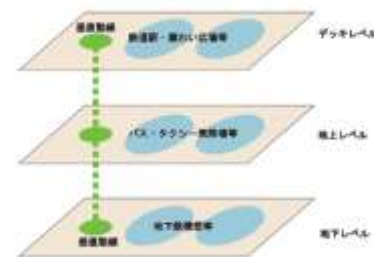
明快な空間づくり (ハード)

デッキレベルを基軸としたバリアフリーかつ次世代モビリティに配慮した歩行者ネットワークの形成



出典：国道15号・品川駅西口駅前広場事業計画

デッキレベルと地上部、地上部と地下部を結ぶ垂直動線の確保



出典：GL2020 (東京都, 2020)

多様な交通モード間をシームレスに繋ぐ

多様で立体的な交通モード間をシームレスにつなぐとともに、総移動時間の短縮とそれに伴うゆとり時間の活用にも配慮した空間の形成



出典：GL2020 (東京都, 2020)

5. 各ゾーンにおける方針

ここからは、3つのポリシーを受けて各ゾーンで展開していく方針を整理します。

西口ゾーン

東口ゾーン

北口ゾーン

①それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける

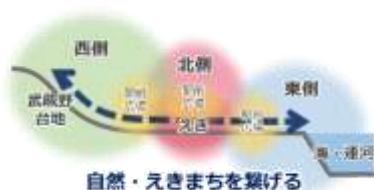


武蔵野台地の崖線・緑等を継承しながら、おもてなしを提供する複合的な機能を持った国際交流拠点にふさわしい駅前顔づくりを行い、次世代型交通ターミナル（モビリティ）等の新しい技術等を加え、イノベーションを発信する

水辺への繋がりを感じる賑わいの創出等によって海の記憶等を継承しながら、リニア中央新幹線や日本を代表する情報・ものづくり企業群のビジネス空間更新等を加え、イノベーションを発信する

100年続く鉄道の歴史（車両基地跡地）上に、線路の線形敷地を活かした新しい国際的な複合市街地拠点の形成によって、鉄道歴史を継承し、新市街地によるイノベーションを発信する

②広場やデッキ等を活かし、自然とえきまちを繋げる



駅から西側へ繋がるデッキや駅前広場等によって、駅と武蔵野台地（崖線や緑等）、西側の市街地、住宅等を快適に連続的に結ぶ

駅から東側へ繋がるデッキや駅前広場等によって、駅と東側の市街地・運河・海等を快適に連続的に結ぶ

駅から北側へ繋がるデッキや駅前広場等によって、駅と北周辺地区や泉岳寺方面・高輪ゲートウェイ駅・駅東西を快適に連続的に結ぶ

③多様で立体的な交通モード間をシームレスに繋ぐ



リニア中央新幹線や東海道新幹線、次世代モビリティ、在来線、バス・タクシー、地下鉄新駅（構想）等をシームレスに繋ぐ

リニア中央新幹線や東海道新幹線、次世代モビリティ、在来線、バス・タクシー、地下鉄新駅（構想）等をシームレスに繋ぐ

リニア中央新幹線や東海道新幹線、次世代モビリティ、在来線、バス・タクシー、地下鉄新駅（構想）等をシームレスに繋ぐ

えきゾーン

品川駅の顔づくりとして駅部を高度利用するとともに、各ゾーンをシームレスに繋ぐ

5. 各ゾーンにおける方針

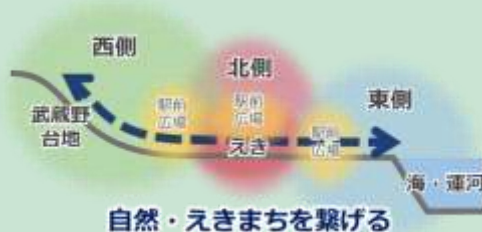
西口ゾーン

① それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける



武蔵野台地の崖線・緑等を継承しながら、おもてなしを提供する複合的な機能を持った国際交流拠点にふさわしい駅前の顔づくりを行い、次世代型交通ターミナル（モビリティ）等の新しい技術等を加え、イノベーションを発信する

② 広場やデッキ等を活かし、自然とえきまちを繋げる



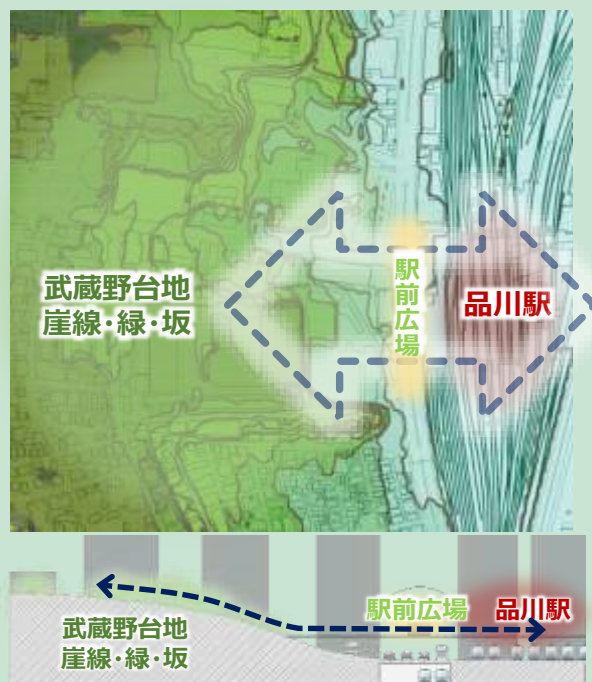
駅から西側へ繋がるデッキや駅前広場等によって、駅と武蔵野台地（崖線や緑等）、西側の市街地、住宅等を快適に連続的に結ぶ

③ 多様で立体的な交通モード間をシームレスに繋ぐ



リニア中央新幹線や東海道新幹線、次世代モビリティ、在来線、バス・タクシー、地下鉄新駅（構想）等をシームレスに繋ぐ

- 崖線・緑等の豊かな自然・地形**
出典：港区HP
- 貴賓館、日本庭園等の伝統的な景観**
出典：高輪貴賓館HP
- ホテルを始めとしたおもてなし**
出典：総務省HP
- 国道15号上空デッキ**
出典：国交省品川駅西口駅前広場イメージ動画
- 次世代型交通ターミナル 次世代モビリティ**
出典：国道15号・品川駅西口駅前広場事業計画（概要）



5. 各ゾーンにおける方針

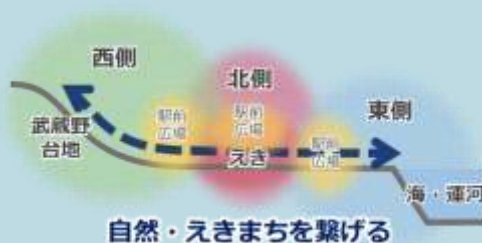
東口ゾーン

① それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける



水辺への繋がりを感じる賑わいの創出等によって海の記憶等を継承しながら、リニア中央新幹線や日本を代表する情報・ものづくり企業群のビジネス空間更新等を加え、イノベーションを発信する

② 広場やデッキ等を活かし、自然とえきまちを繋げる

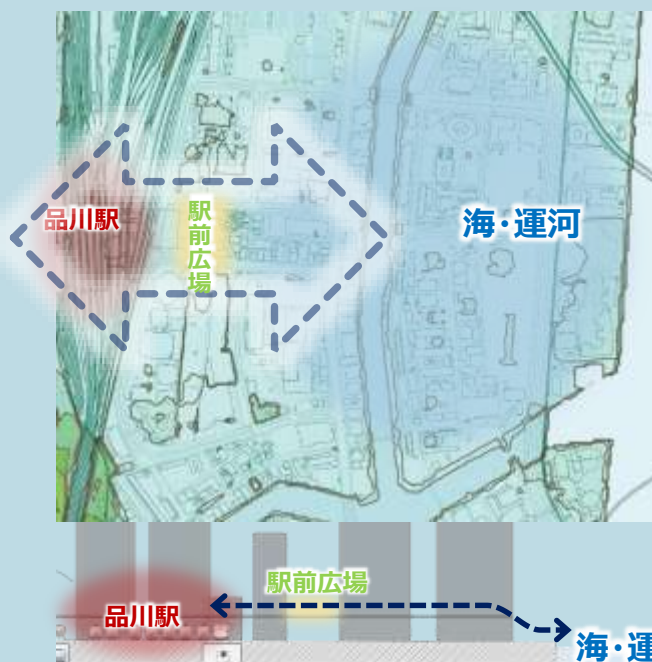


駅から東側へ繋がるデッキや駅前広場等によって、駅と東側の市街地・運河・海等を快適に連続的に結ぶ

③ 多様で立体的な交通モード間をシームレスに繋ぐ



リニア中央新幹線や東海道新幹線、次世代モビリティ、在来線、バス・タクシー、地下鉄新駅（構想）等をシームレスに繋ぐ



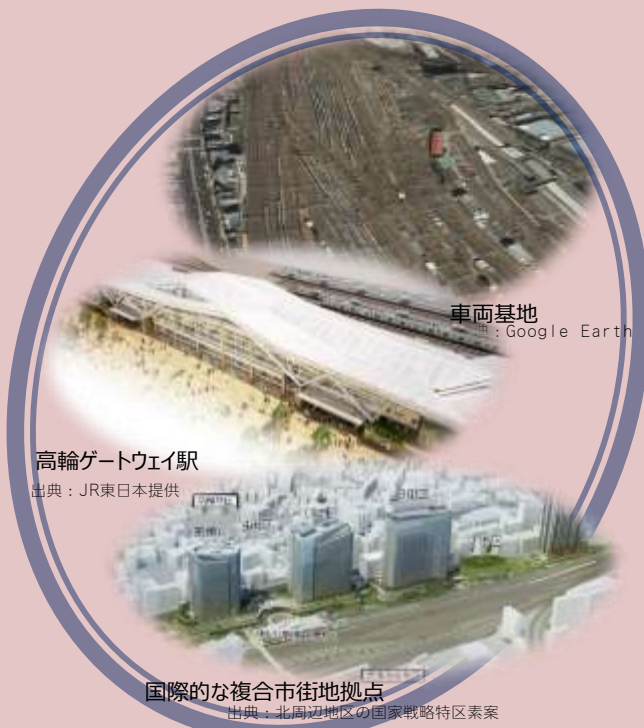
5. 各ゾーンにおける方針

北ロゾーン

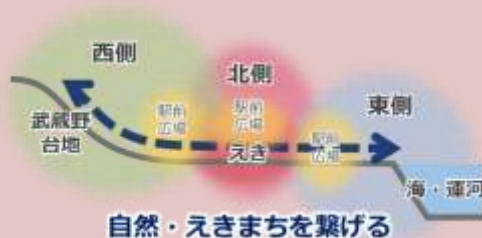
① それぞれのまちの履歴を継承し、革新を生み発信し続ける



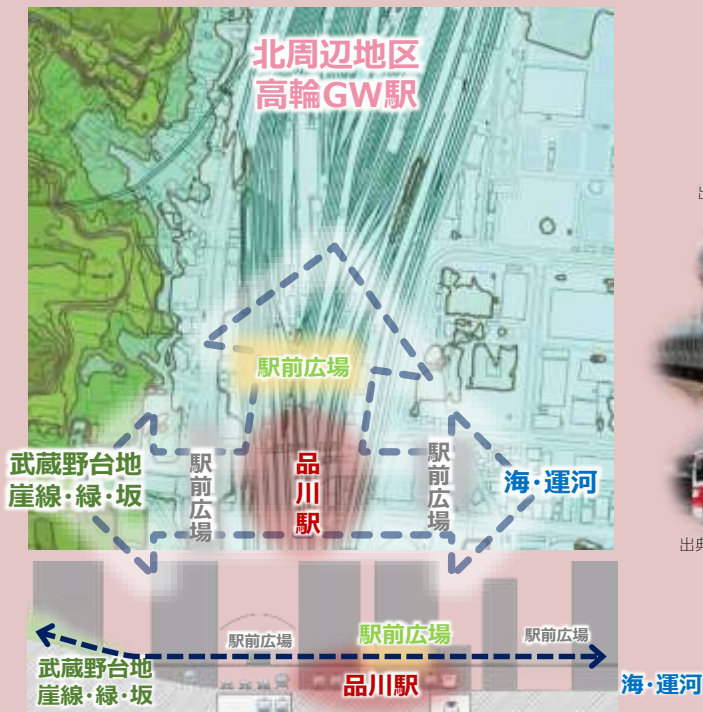
100年続く鉄道の歴史(車両基地跡地)上に、線路の線形敷地を活かした新しい国際的な複合市街地拠点の形成によって、鉄道歴史を継承し、新市街地によるイノベーションを発信する



② 広場やデッキ等を活かし、自然とえきまちを繋げる



駅から北側へ繋がるデッキや駅前広場等によって、駅と北周辺地区や泉岳寺方面・高輪ゲートウェイ駅・駅東西を快適に連続的に結ぶ



③ 多様で立体的な交通モード間をシームレスに繋ぐ



リニア中央新幹線や東海道新幹線、次世代モビリティ、在来線、バス・タクシー、地下鉄新駅(構想)等をシームレスに繋ぐ



個別ゾーンについては、今後、段階的に策定することを予定しています。また、えきゾーンについては、えきまちの中心であることにもかんがみ、他ゾーンとの調整もはかりながら、その対象とする範囲も含め、今後具体の調整を進めていきます。

ガイドラインの対象範囲に係る開発計画については、ガイドラインを踏まえた計画となるよう検討を進めるとともに、策定後の運用段階においても関係者間の調整が図られるよう運用していきます。

品川駅 えきまちガイドライン（案）

「これからの日本の成長を牽引する
国際交流拠点・品川」のえきまち一体の空間・景観づくり

編集・発行
東京都都市整備局都市づくり政策部開発企画課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
☎03(5388)3245